



# 変わりゆく三休橋筋のいまを歩く

上を向いてゆっくり歩こう  
緑と灯りのプロムナード



## 船場の背骨・三休橋筋

三休橋筋は中之島の中央公会堂近くの梅檀木橋（せんだんのきばし）から長堀通までの約2km、御堂筋と堺筋のちょうど真ん中を南北に通る道です。中之島からミナミの島之内を結ぶ補助幹線として、大正時代に拡幅（7間=12.7m）が計画され、御堂筋と同じ昭和初期に整備されました。この三休橋筋の周辺には、数多くの近代建築や昔のたたずまいを見せる旧家が残っています。また、適度な道幅と緑豊かな街路樹が、大阪の都心とは思えない心地よい空間を生み出しています。

## 歴史豊かな都心のストリート

船場を南北に貫くこの通りの両側には、金融の今橋、葉の道修町、織維の南本町、問屋街の南久宝寺、若者の街となった南船場など、特徴的なまちが連なっており、大阪の歴史の断面を感じることができます。ぜひこの地に積み重ねられてきた歴史を感じてください。

三休橋筋の名前は、長堀川にかけられていた三休橋に由来します。船場と島之内を結ぶ長堀橋、中橋、心齋橋の3つの橋の通行量を減らすことから三休橋と名付けられたといわれています。多くの橋が鉄橋に架け替えられる中、三休橋だけは1962年に長堀川の埋め立てで撤去されるまで木製橋でした。

## 変わりゆく三休橋筋

船場を再び魅力あるまちに再生するためのひとつとして、歩道を広げて歩きやすく、電線のない美しい通りにする工事が進められています。工事に合わせて、近代建築の残るレトロな街並みに似合うガス灯が整備され、街路樹もこれまでの「トウカエデ」から「センダン」へ植え替えられます。また、地域の人たちによる組織が立ち上がり、魅力アップを目指した様々な活動も生まれてきました。将来はきっと緑のトンネルとほのかな灯りが美しい都心のオアシスとなることでしょう。そんな変わりゆく三休橋筋のいまを感じてください。

## 地元と行政の協働作業

### 三休橋筋プロムナード整備



大阪市建設局によって、三休橋筋のプロムナード整備（歩道拡幅と電線地中化工事）が進められている。特徴的なのは、これまでに地元意見交換会が10回開かれ、そこで舗装の仕様や街路樹の樹種が決められていることだ。また、その官民協働の動きに呼応するように、地元企業などによるガス灯寄贈の提案があり、現実のものとなっている。道路は2010年までに土佐堀通から中央大通まで整備される。沿道のレトロなビル、オシャレなお店、そしてガス灯のベストマッチで、三休橋筋は大阪で一番の「歩きたい道」になるだろう。

## 船場の連絡会議

### せんばGENKIの会



三休橋筋は、土佐堀通から長堀通まで、「船場（せんば）」と呼ばれる大阪都心部を貫く道だ。その回りでは、「船場が元気になると、大阪も変わる!」と、さまざまなグループが色々な活動を行っている。しかしバラバラに活動をするよりも、お互いを知り合い、協力ができれば効果的だと作られたのが「せんばGENKIの会」。現在は船場の23の活動団体がゆるやかに連携しながらネットワーク、プロモーション、プロデュースのため、船場フォーラムを毎年開催し、船場の未来について討論と情報発信を行っている。

HP ▶ <http://www.semiba-genki.net>

## 三休橋筋が商店街？

### 三休橋筋商業協同組合

ポツリポツリと増えてきた三休橋筋のオシャレなお店。これらのお店や地元の企業などが加わり、三休橋筋の美化やイメージアップを目指した活動を始めている。その母体となるのが「三休橋筋商業協同組合」。商業協同組合というのは大阪府の認可を受けた商店街の運営組織。まちの景観維持と活性化を目指すストリート広告等の実施主体にもなれるよう、三休橋筋では公共的な役割を持つ商業協同組合の形をとっている。実はガス灯の維持管理もこの商業協同組合が行なっている。また毎年6月には、近代建築を会場にフランス食のイベント「ハッピーアペリティフ」を開催している。



HP ▶ <http://www.3984st.com>

## 三休橋筋の立役者達

### 京阪地下通路の三休橋筋パネル展示



つい数年前まで、三休橋筋は地元の人かタクシーの運転手さんぐらしか知らない、埋もれた通りだった。その通りが大きく変り始めたのは、三休橋筋の魅力に気づいた数名の人たちが出会い、まちの魅力と夢を語るようになったから。そのネットワークが拡がり、大阪市のプロムナード整備がスタートし、ガス灯が寄附され、新しいお店ができ、まちが大きく変化し始めた。京阪北浜駅から西に延びる地下通路には、三休橋筋に関わっている人たちが紹介されている。どんな人たちが、一度、見てみては？

上を向いてゆっくり歩こう  
緑と灯りのプロムナード

三休橋筋のいまを歩く  
変わりゆく

大阪発見  
まちあるき  
ツアー

## 大阪発見まちあるきツアーマップについて

本マップは、大阪商工会議所が、市民やまちあるきガイドとのコミュニケーションを通じて、大阪の街を歩いて楽しむことができるよう、三休橋筋愛好会とともに、企画、製作したものです。マップ片手に大阪のあちこちを巡り、大阪の歴史や文化に触れながら、新たな魅力発見を楽しんでください。

## 三休橋筋愛好会について

三休橋筋愛好会は『大阪の魅力を増やし・伝える』ための自主活動グループです。大阪を歩き、大阪を知り、大阪の人たちと交流しながら、大阪に根ざした魅力を提案し・発信していく、そんな活動を続けています。私たちの動きはささやかなものかもしれませんが、でもそんないろんな活動が知恵を出しながらぶつかって、集まって、大阪はおもしろくなっていくと信じています。時には名前を変え、姿を変えながら、いつか『あなたのまわりのその魅力に、実は私たちがお手伝いしている』そんなふうになっていることを願って、私たちは自分達ができることは何かをさがしながらこれからも活動をつづけていきます。

HP ▶ 三休橋筋愛好会 HP  
三休橋筋愛好会の活動内容などはこちら  
<http://3q-ave.seesaa.net/>

大阪ナイトカルチャー HP  
大阪の夜をもっと楽しむためのイベント情報はこちら  
<http://www.osaka-nightculture.com/>

大阪観光 HP OSAKA-INFO  
大阪の観光情報を網羅したHP。宿泊施設の検索やグルメ情報も満載  
<http://www.osaka-info.jp/>

発行：大阪商工会議所 地域振興部 2008.10  
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8  
TEL：06-6944-6323 FAX：06-6944-6330  
E-mail：chishin@osaka.cci.or.jp  
URL：http://www.osaka.cci.or.jp/



# 上を向いてゆっくり歩こう 緑と灯りのプロムナード

## 1 中央公会堂

建物の東正面から屋根の上を見ると子供の像が見える。これは商業の神メルキュール(左)と科学・工芸の神ミネルバ(右)といい、1.7mもの高さがある。商工業が栄え、「東洋のマンチェスター」と呼ばれた建設当時(大正7)の想いが伝わってくる。



画像提供:大阪ええはがき研究会

## 2 梅檀木橋

江戸時代初期に、豪商の倉や屋敷が建ち並ぶ北浜と、諸藩の蔵屋敷のある中之島との連絡のために架けられた。洪水などで何度か架け替えられており、現在のものは昭和60年竣工。この橋詰めに梅檀の木の大木があったことが名前の由来。



画像提供:大阪ええはがき研究会

## 3 八木通商ビル

テラコッタタイルが美しいビル。出入口の回りにはメアンダー模様の縁取りが、また窓回りにはアラベスク模様が使われている。タイルの白さが印象的だが、東京駅で有名な辰野金吾の設計で、建設時(大正7)は赤レンガのビルだった。国枝博によって昭和4年に改修。



画像提供:大阪ええはがき研究会

## 4 旧大中証券ビル

赤いレンガに白い石、銅板葺きの屋根のコントラストが美しい。どこかで見たような気になるのは、東京駅や大阪市中央公会堂、旧第一銀行神戸支店(みなと元町駅)などを手がけた辰野金吾の設計(明治45)だから。



画像提供:大阪ええはがき研究会

## 5 浪花教会

ポイントドアーチの窓をよく見てみよう。ステンドグラスが設けられ、パイオルガンが設けられた礼拝堂の中に、柔らかな光が降り注ぐようになっている。日曜日は平日とは違って変わって静かなひととき。朝の礼拝に参加すると、この教会のすばらしさを堪能できる。



画像提供:大阪ええはがき研究会

## 6 船場ビルディング

このビルは三休橋筋拡張を機会(大正14)に建てられた。地下と1階がメゾネットの事務所兼住宅で、荷車の出入りのために、床に木レンガが敷かれたそう。このビルの魅力は、1階のパティオ風中庭。吹き抜けの両側には、デザイン事務所などが面する廊下が設けられている。



画像提供:大阪ええはがき研究会

## 7 ガス燈

平成19年6月7日は三休橋筋の記念日だ。この日、大阪市が進める三休橋筋プロムナード整備の第1工区完成式典として、大勢の人たちが見守る中「ガス燈」に灯りがともされた。このガス燈は地元企業などから寄贈され、世界的プロダクトデザイナーの喜多俊之氏がデザインを担当している。



画像提供:田浦紀子

## 9 丸紅

ビルの西側に、馬に乗った子供に男女が左右から手をさしのべるレリーフが設置されている。これは彫刻家古賀忠雄氏による「生まれ出ずる喜び」。丸紅旧本館ビルの壁面に設けられたものを、新ビルへの建て替えの際、壁ごと切り取って敷地の一角に保存された。



画像提供:大阪ええはがき研究会

## 8 綿業会館

三休橋筋のランドマークであり、かつての繊維のまち大阪を象徴するビルが、日本綿業倶楽部の建物であるこの「綿業会館」(昭和6年竣工、平成15年重要文化財に指定)。設計は日本近代建築の先駆者的役割を果たした建築家渡辺節で、若き日の村野藤吾も設計にかかわっている。外観はアメリカンボザールと呼ばれる様式だが、内部は世界各国からのお客さんや利用する会員さんの好みで部屋を選んでもらえるように、さまざまなデザイン様式が採用されている。また設備面でも当時から井戸水による冷房をおこなうなど、先進的な技術が採用されている。竣工当時から各国の要人が来館し、国際会議の場としても利用されている。開館早々には、リットン調査団(英・米・仏などからなる国際連盟満州事変調査団)も来館している。



画像提供:大阪ええはがき研究会



画像提供:大阪ええはがき研究会

HP ▶ <http://www.mengyo-club.or.jp/>

## 10 船場センタービル

中央大通りの真ん中に建つこのビルを見上げると、ビル全体で高速道路を支えていることが分かる。地下には地下鉄が通り、まるで子供の頃見た未来都市の挿絵のようだ。万博に間に合わせるため、唐物町を潰して1970年に完成。法律上は、道路の真ん中に建物が建っている。



画像提供:大阪ええはがき研究会

HP ▶ <http://www.sembo-center.com/>

## 11 三休橋エクセルビル

大阪市立大学・都市研究プラザが大阪都心部で展開する実践的研究スペース「船場アートカフェ」が入居している。活動の目的は『芸術の持つ「接合する力」「媒介する力」に焦点をあて、都市における芸術の可能性を追求する試み』とあり、世界の民俗音楽の講座や映像関連のワークショップなど、芸術と市民をつなぐさまざまなイベントがおこなわれている。またビル内には「船場キャンパス」という船場・三休橋筋で活動するまちづくりグループのミーティングや作業のためのスペースがあり、地域のまちづくり活動をサポートしている。



HP ▶ <http://art-cafe.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

## 12 大阪農林会館

三菱商事大阪支店として建設されたが、売却の際、農林省関係の事務所が集まって買い取ったことから、農林会館になったと言われている。大手前に合同庁舎ができて農林省関係の事務所は少なくなり、現在は個性的な雑貨店やデザイン系の書店が入居している。



## 13 三休橋跡

三休橋筋の名前の由来となる三休橋は、長堀川(クリスタ長堀の場所)にかけられていた橋の一つで、それ以前にあった心斎橋、中橋、長堀橋の3つの橋の交通量を分担し、休ませるようにつくられたといわれている。中央区島町にある料亭「大乃や」の入口に、かつての三休橋の石柱が保管されている。



大正8年ごろの三休橋



大阪ええはがき研究会は、大阪の埋もれた魅力を手づくり絵はがきで発掘、発信している自主活動グループです。

HP ▶ <http://osaka-eehagaki.seesaa.net/>